



きつつきの商売 (2)

名前

葉っぱのかさをさした十びきの子ねずみたちは、きらきらしたきれいな目を、そろってきつつきにむけました。

「さあ、いいですか、今日だけのとくべつな音です。お口をとして、目をして、聞いてください。」

みんなは、しいんとだまって、目とじました。

目をとじると、そこらじゅうのいろんな音が、いちどに聞こえてきました。

ぶなの葉っぱの、
シャバシャバシャバ、
じめんからの、
パシパシピチピチ、
葉っぱのかさの、
バリバリバリ、
そして、ぶなの森の、
ずうつとおくふかくから、
ドウドウドウ、
ザワザワザワ、



「ああ、聞こえる、雨の音だ。」
「ほんとだ、聞こえる。」

「雨の音だ。」

「へえ。」

「うふふ。」

野ねずみたちは、みんな、にこにこなずいて、それから、目を開けたりじたりしながら、ずうつとずうつと、とくべつメニューの雨の音につつまれていたのでした。

上の文章を読んで、答えましょう。

(1) きつつきが子ねずみたちに言った言葉を書きましょう。 (10)

「さあ、いいですか、今日だけのとくべつな音です。お口をとして、目をして、聞いてください。」

(2) 次の音は、どんなふう聞こえたのでしょうか。文の中の言葉を使って書きましょう。 (10)

① ぶなの葉っぱ (シャバシャバシャバ)

② じめんからの音 (パシパシピチピチ)

③ 葉っぱのかさの音 (パリパリパリ)

④ ぶなの森のずうつとおくふかくから (ドウドウドウザワザワザワ)

(3) 「今日だけのとくべつな音」というのは、何の音ですか。 (10)

雨の音

(4) 「今日だけのとくべつな音」を聞いている、十びきの子ねずみたちの様子にあってはまるものに、○をしましょう。 (10)

() ぬれながら聞いている。

() かさをさして聞いている。

() にこにこしながら聞いている。

() うなずきながら聞いている。

() 目を開けたりじたりしながら聞いている。

() おどりながら聞いている。



きつつきの商売 (1)

名前

きつつきが、お店を開きました。
それはもう、きつつきにぴったりのお
店です。

きつつきは、森じゅうの
木の中から、えりすぐりの
木を見つけてきて、かんば
んをこしらえました。

かんばんにきざんだお店
の名前は、こうです。

おとや

それだけでは、なんだか分かりにくい
ので、きつつきは、その後、こう書き
ました。

てきたての音、すてきない音、お聞
かせします。四分音ぶーこにつき、ど
れでも百リル。

「へええ、どれでも百リル、どんな音が
あるのかしら。」

そう言って、真っ先にやって来たのは、
茶色い耳をびんと立てた野うさぎでした。
野うさぎは、きつつきのさし出したメニ
ューをじっくりながめて、メニューのい
ちばんはじっこをゆびさしながら、

「これにするわ。」

と言いました。

ぶなの音です。

「四分音ぶ分、ちょうだい。」

「しょうちしました、では、

どうぞこちらへ。」

きつつきは、野うさぎをつれて、

ぶなの森にやって来ました。



上の文章を読んで、答えましょう。

(1) きつつきが開いたお店について、書きまし
よう。

① きつつきが開いたお店の名前は、何ですか。

おとや

② きつつきはどんな木で、かんばんをこ
しらえましたか。

森じゅうの木の中から、
えりすぐりの木を見つけて
きて、かんばんをこしらえ
た。

③ 文中のそれは何をさしていますか。

おとや

(2) ① おとやは何をする店ですか。

てきたての音、すてき
ない音を聞かせる店。

② 文中のそうは何をさしていますか、ぬき
書きしましょう。

「へええ、どれでも百リル
どんな音があるのかしら。」

(3) ① 真っ先にやって来たのは、だれですか。
文の中からえらんで、□にあてはまるよう
に十五字で書きましょう。

茶	色	い	耳	を	び	ん	と
立	て	た	野	う	さ	ぎ	

② そのおきやくは、何をどれだけちゅう
もんしましたか。

ぶなの音を、四分音
ぶ分ちゅうもんした。

③ その音のねだんは、いくらですか。

百リル

